

第3学年 総合的な学習の時間 学習活動案

日時 令和7年11月21日(金)

5校時

桜町小学校

対象		授業者
第3学年1組	35名	室井 早紀
第3学年2組	34名	伴 尚 益
第3学年3組	34名	久保田 大介
第3学年4組	34名	土屋 香澄

- 単元名:「大豆プロジェクト」
3年1組「すすめ!大豆探検隊」
3年2組「大豆プロジェクト」
3年3組「3年3組とうふ名人」
3年4組「調べよう、育てよう、食べてみよう!大豆大作戦」

2 単元を通して子どもたちが学ぶであろうことがら

大豆を使った活動を繰り返し行うことを通して、大豆の魅力に気付き、大豆の汎用性の高さや万能性について理解し、自ら見いだした課題を自分たちで解決するために、すすんで考えて行動するとともに、調べたことを自らの力で発信する方法を考え、今後の生活にも生かすことができるようになる。

3 育つと考えられる資質・能力及び評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする。
① 大豆について探究するなかで、材に必要な知識や技術を理解している。 ② 活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらまとめる方法が分かっている。 ③ 本やインターネット、インタビューなどを活用して自己の課題に必要な情報を選択・収集し、課題解決のために活用することができる。	① 大豆について探究するなかで課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ② 必要な情報を得るために情報収集の手順を選択し、必要に応じてICT機器を活用して情報を蓄積している。 ③ 友達の収集した情報と自分の情報を比較して、共通点や相違点を明らかにしたり、関連付けたりして、情報を整理・分析している。 ④ 大豆について探究して分かったことや考えたことを、伝える相手や目的に応じてまとめ、適切な方法で表現している。	① 自己の取組を振り返ることを通して、大豆を使った食品づくりやそれに伴う探究活動に進んで取り組もうとしている。 ② 考えの異なる友達と協力して課題の解決に向けて取り組もうとしている。 ③ 大豆について探究する中で、自分の考えを伝えたり、活動に関わったりすることで、集団の中で積極的に行動しようとしている。 ④ 繰り返し活動を行う中で、考えたことを自らの生活や行動に生かそうとしている。

4 単元の価値・児童に期待したい学び

※単元計画、研究の手立てに同様の内容を記載。

5 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)必然性のある材

昨年度の振り返りをした際に、上級生の活動について知った時、「何かを作ってみよう」という漠然とした思いをもった。国語の学習で「すがたを変える大豆」の学習を終えると「総合でもっと詳しく大豆について調べてみたい」と考えをもった。学びの連続性・関連性をもてるとしたらどんな材が良いか、児童に聞いた際の言葉を基にし、今年度の材を「大豆」とした。大豆は様々な形で変化する万能な食材である。その食材を乗せるお皿作りにも興味関心をもった。

「大豆」がどのように変容していくのか、国語の学習で理解は深めたが、大豆から様々に変容していく過程に疑問を抱き、解決していきたいという意欲をもった。それぞれの学級で行った第1時では、大豆について解決していきたい疑問や、やってみたいと思うことを出し合い、1年間の計画を立てた。子どもたちの欲求に沿い、無理なく活動を続けていけるように、子どもたちと活動する中で児童の思いを見取りながら、一緒に探究していきたい。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

大豆を育成したいという児童の思いから、環境作りに努めた。子どもたちに必要感が芽生えたタイミングで、待たせることなくすぐに物を提供できるように事前準備を行った。また、子どもたちと共に大豆料理の魅力を感じるべく、地域の豆腐店の豆腐を食べ比べた。大豆の旨味を教師自ら体験した。その他にも、子どもたちと共に大豆について知識を深めていくことができるように、探究を続けていく。

○探究的な学びに向かうための手立て

※『カリキュラム・マネジメント表』及び『7 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス』参照

○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分の考えや思いを一人ひとりがもつ

学級の実態に応じてタブレットを活用したり、紙面での振り返りを行ったり、毎時間それぞれの児童が学んだ軌跡が残るように記録を残していく。活動していて感じたことや、気付いたこと、今後の課題などを細かく振り返る習慣が身につくように活動を進める。

6 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される児童の姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	・グループ内の児童同士で目標の相談をしている。 ・目標に向かって作業を分担している。 ・他グループと情報共有している。 ・大豆の魅力を異学年や地域の方に発信している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	・自分のこだわりをもって色付けや形作りを行っている。 ・大豆についての発信に意欲的になっている。 ・地域の方や友達とどのように関わればよいか考え行動している。 ・大豆の魅力を広めるために役割を認識し、積極的に活動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	・課題や活動結果から、何を目標にすべきか考えている。 ・得た情報から具体的な取組を考えている。 ・関わる方々から聞いた話をまとめている。 ・作品の発表方法や魅力発信の計画を立てている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	・グループ活動で自分の役割を見付けている。 ・大豆について調べる活動をしていくなかで、役割を果たす楽しさを味わっている。 ・大豆について調べる活動を通して、計画を立て、実施した際に得られる経験が、今後の活動に役立つことを理解している。 ・自身の活動が日本の食文化を守ることにつながっていると感じる。

7 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した授業改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される児童の姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・大豆について知るために、何をすべきか考えている。 ・作るものに対して様々なアドバイスをもらい、今後何をすべきか考えている。 ・相手が何を求めているかを知り、何をすべきか考えている。 ・大豆の魅力や職人さんの思いを広めるために、何をすべきか考えている。
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> ・活動した内容を記録しさらに追究すべきことを考えている。 ・活動を進める中で、課題を自ら見だし、それを解決しようと思えることができる。 ・どんな方法で紹介すれば大豆の魅力が伝わるか考えている。
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・活動するなかで、友達と意見を交わしながら試行錯誤している。 ・自分たちが作りたいものを友達と意見を交わしながら創作している。 ・大豆の魅力を伝えるための方法を協力して考えている。
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後、どのように学習を進めていくか考えている。 ・活動後に振り返りを行い、さらによいものを作る方法を考えている。 ・この経験を次年度以降どのように生かしていくか考えている。

8 単元について(単元計画・評価の観点)

※別紙参照

9 本時の展開

※別紙参照